

和光市総合振興計画審議会第2回会議（安全部会） 会議要旨

開催日：平成27年5月29日（金） 午後2時00分～5時00分

開催場所：和光市役所4階研修室

出席者：金子正義部会長、柴崎幸夫委員、松田廣行委員、長野基委員、藤川和孝委員、
泉常夫委員、佐藤嘉晃委員

欠席者：富岡健治委員

事務局：川辺課長、前島課長補佐、工藤主査、遠藤主事

傍聴者：0名

次第：1 開会

2 議事

(1) 施策内容修正シートに関する審議

- 施策1 中心市街地にふさわしい駅北口周辺の整備
- 施策2 交通の利便性を生かした産業拠点の整備
- 施策3 良好な景観形成の推進
- 施策5 安心して暮らせるまちづくりの推進
- 施策6 安全で快適な道路の整備
- 施策7 交通安全対策の推進
- 施策8 都市計画道路の整備
- 施策9 計画的な公園の整備と維持管理の充実
- 施策10 県営和光樹林公園の有効活用
- 施策11 安全な水の安定供給
- 施策12 公共下水道利用の推進
- 施策13 雨水対策の推進
- 施策48 防災体制・消防支援体制の強化
- 施策49 地域と連携した防犯対策の推進
- 施策55 地球温暖化対策の推進
- 施策71 持続可能な財政運営
- 施策72 市民の期待に応える職員の育成
- 施策73 市有施設の適正な保全
- 施策74 積極的な広報活動と情報共有化の推進

(2) その他

3 その他

次回開催の日程

4 閉会

1 開会

2 議事

(1) 施策内容修正シートに関する審議

施策1 中心市街地にふさわしい駅北口周辺の整備

[その他]

藤川委員： 4年前に和光市駅北口駅前広場づくりワークショップに参加し、歩行者のスペースを広くとり、市民が集えるようにする、魅力ある駅前商業地区を形成するため地権者の協議会を作るなどを提案したが、進展がみられない。インフラ整備のみを仕事として捉えていて、まちづくりをやっているという認識が低いのではないか。取組内容①に「市民参加を取り入れ、周辺駅前商業地区などの魅力を高めるよう整備します」と書いてあり、この趣旨で推進してほしい。

金子部会長： 早期に計画を立て、推進してほしい。藤川委員の意見は参考意見として報告する。

[部会の意見(参考意見)]

和光市駅北口駅前広場の整備について、進展がみられない。取組内容①に記載のとおり、市民参加を取り入れ、周辺駅前商業地区などの魅力を高めるよう整備を推進してほしい。

[7. 施策指標]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

佐藤委員： 修正後のH26の数値はH21と同じなのでこの5年間の進捗がゼロと理解しますが、H27年の数値修正がないということは平成27年度1年間で34.2%までの進捗を見込んでいるということですね。

所管課： 施策指標は、使用収益の開始ができた仮換地の割合＝整備率です。使用収益が開始できる条件は仮換地の造成及び接続する道路に水道、汚水、ガス等のライフラインが埋設された状態としています。工事に着手できるのは、仮換地指定(H25.8.27)後となりますので、施策指標における5年間の整備率は0%ですが、平成25年度から建物移転等補償交渉及び工事を進めております。H27の数値については、現事業計画で施行期間を平成34年度として定めているため、この施行期間と整備目標率が整合するようしておりますので、修正なしとしました。平成27年度内において、この整備率を達成することは極めて困難な状況ですが、着実に移転、工事を進めていきます。

金子部会長： 佐藤委員から質問があったが、造成工事完了後実際に使用できるまでは使用収益はかけられない。平成27年度の事業計画は既に予算化されており、実際に工事を進めているので、現状においては1年や2年で使用収益を開始できる

とは思わない。目標値を34.2%のままとしているのは適切ではない。

泉委員： 所管課の回答でも「この整備率を達成するにはきわめて困難な状況」と言っている。

佐藤委員： 「極めて困難だ」と言いながら、数字を修正していない。「着実に移転、工事を進めていきます」と書いてあるが、市民一般向けに進捗を示すのであれば綺麗事を書くべきではない。

[部会の意見]

平成27年度の目標値を見直すべきである。

施策2 交通の利便性を生かした産業拠点の整備

[8. 修正理由等]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

佐藤委員： 施策2完了に伴う「施策63への一元化」の〈提案〉は具体的にどのように行うのでしょうか。方向性をお示してください。

所管課： 施策2については、産業拠点のインフラ整備が施策目的であり、平成28年度の土地区画整理事業完了とともにその目的が達成されます。取組内容①有効な土地活用の推進、②地区計画の活用による良好な環境形成については、引き続き当該地区での土地利用を誘導する必要があることから、施策63の取組の中で進行管理すべきと考えます。

金子部会長： 施策指標には平成27年度で整備率100%と書いてある。整備が終わるのであれば、施策2は完了とすればいいのではないか。

佐藤委員： 施策2はハード面、施策63はソフト面で異なる内容である。

金子部会長： 2つの施策を一元化すべきではない。

[部会の意見]

施策2の取組が終了した場合は完了とし、施策63と統合することは適切ではない。

施策3 良好な景観形成の推進

[6. 取組内容]

藤川委員： 和光市景観計画の景観づくりの目標に「緑豊かなふるさと」とあり、和光市民憲章の1番には「私たちは、緑をふやし、きれいなまちをつくります」とあるように、景観づくりにおいて「緑」は大きな要素である。総合振興計画の中にも「緑」について記載すべきである。「緑の保全」については施策56湧水・緑地の保全と再生で記載されているため、本施策には「緑を増やす」ことについての具体的な取組がほしい。

[部会の意見]

和光市景観計画の景観づくりの目標に「緑豊かなふるさと」とあるなど、景観づくりにおいて緑が主要な要素となっている。本施策には緑に関する具体的な取組を取り扱うべきである。

[7. 施策指標]

金子部会長： 「市景観計画に基づく景観重要建造物及び景観重要樹木の指定件数」の現状値が“1”となっている。内容は建造物であると思うが、指標名としては景観重要建造物と景観重要樹木は別々に分けて示すべきである。

[部会の意見]

指標名としては、景観重要建造物と景観重要樹木を分けて表示する。

[3 - 2. 平成27年度の現状]

佐藤委員： この施策内容修正シートが新しい計画になると理解してよろしいか。

事務局： はい。

佐藤委員： 当然のことだが、すべての施策に現状があるはずである。よって、平成27年度の現状欄を空欄とすべきではない。

[部会の意見]

《全施策共通》現状を記載する。

施策5 安心して暮らせるまちづくりの推進

[3 - 2. 平成27年度の現状]

泉委員： 平成27年度の現状では、築30年を経過する分譲マンションをトピックとして挙げているが、築40年、50年を経過する戸建ての空き家などについてスポットを当てる必要はないのか。

事務局： 市長が「マンション政策研究の組織を構築し、マンション特有の問題に対応」という公約を掲げているため、マンションに焦点が当てられていると推測する。

藤川委員： 30年前に建築基準法の改正があり、耐震基準が強化された。それ以前の建築物で耐震基準を満たしていないものを改修していく必要があり、「築30年を経過する」としているのだと思う。

[7. 施策指標（まちづくり条例に基づく完了検査率）]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

長野委員： 完了検査率について、100%で推移しているものを、進捗管理の目標とする理由はどのようなものでしょうか。

所管課： 条例に基づいて、協定締結した計画が、適切に施工されたかを確認し、完成

検査を合格することで、施策の推進指標としています。

泉 委 員： 実績値100%のものを指標とする意味はあるのか疑問である。

佐藤委員： 一般的に、指標は低い実績を増やしていくものであるべき。目標になり得ないものを指標とするのは不適切ではないか。

金子部会長： 条例に基づく計画であれば、100%適正になるのではないか。そもそも取組内容に完了検査に関する記述がない。指標は、取組内容の努力や進捗を示すものが適切である。

[部会の意見]

「まちづくり条例に基づく完了検査率」を削除し、取組内容に対応する新たな指標を設定する。

[7. 施策指標（市内住宅耐震化率）]

柴崎委員： 住宅戸数はマンションの場合、建物で数えるのか、それとも世帯で数えるのか。

金子部会長： 一般的にはマンションは1棟単位で数える。

柴崎委員： 現状はマンションと戸建てを合わせて88%となっているが、それぞれを分けて掲載した方が分かりやすいのではないか。

金子部会長： マンション・戸建ても別にする必要があるが、木造・非木造も分類する必要がある。

藤川委員： 耐震診断を○件実施、耐震改修を○件実施という数字も指標になり得るのではないか。

[部会の意見]

マンションと戸建てを合わせて指標とすることは分かりにくいので、建物の種類と構造は別々に分けて指標とすると分かりやすい。また、耐震診断件数及び耐震改修件数を指標とする。

[4. 課題]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

佐藤委員： 追記部分に「把握が必要になります」とありますが、必要になるのは市ではなく住んでる住民です。市が行う課題認識は当該住民への啓蒙や警告であって、市が把握するように読めるこの書きぶりはピントが外れています。市の立場を正しく認識したスタンスに変更が必要と思いますが如何でしょうか。

所管課： ご意見のとおりです。一部訂正いたします。

長野委員： この施策に限らず、全体的に課題認識が不足している。現状を認識し、課題を挙げ、それを解決するための取組を用意し、成果を指標で測定するというス

テップが必要である。例えば、マンションの老朽化に対する適正な資金計画を課題とするのであれば、それに関する指標を掲げるべきである。

金子部会長： 長野委員の指摘のとおり、分譲マンションの支援に関する取組はあるが、指標はない。

佐藤委員： 施策の全体像をはっきりさせるために、取組内容一つに対して指標一つを掲げるべきである。

金子部会長： そのとおり。先ほども指摘したが、指標としている完了検査についての取組がないため、整合性がとれていない。

長野委員： 追加としての意見だが、現状欄に今このような段階ですという説明を加える必要もある。

[部会の意見]

修正する（市の立場を正しく認識したスタンスに変更が必要）。

施策6 安全で快適な道路の整備

[3 - 2. 平成27年度の現状／7. 施策指標]

金子部会長： 取組内容④で述べている段差の解消について、指標がないのは疑問である。

泉委員： 施策の目的にも段差解消と書いているにもかかわらず、指標がないため、進捗が分からない。

長野委員： 事前質問の回答では工事は実施しているということなので、少なくとも現状欄に成果として記載する必要がある。

[部会の意見]

歩道の段差の解消に関する指標を設定する。また、現状欄に成果を記載する。

[7. 施策指標]

泉委員： 新しい指標として、市民からの苦情とその対応数を掲げるのはどうか。事故が起こる事前に対応できるようになるのではないか。

金子部会長： 指標としては、取組内容に対応するものを設定すべきだと思う。例えば、歩道計画〇〇Km、今年は〇〇Kmというように、国や他の自治体では表示しているものが多い。

藤川委員： 分かりやすいと思う。

松田委員： それよりも、市道全体に対して歩道がどれだけあるのかを出してほしい。

佐藤委員： 所管課が指標の変更を提案しているので、そのことについて意見してはどうか。

金子部会長： 具体的に指標を提案するのではなく、取組内容に対応する指標に変更するように提案したい。

[部会の意見]

取組内容に対応する指標に変更する。

[6. 取組内容②]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

藤川 委員： 「環境保全技術による市道舗装補修工事」とはどんな工事ですか（透水性舗装のことであれば、そう書いたほうが分かり易い）。

所 管 課： 通常の舗装より低温で施工する中温化(低炭素)アスファルト舗装という施工方法です。

金子部会長： 藤川委員の質問に関連するが、「温室効果ガスの抑制」という表現について見直す必要があるのではないか。

佐藤 委員： 「温室効果ガス」という表現はストレートすぎるため、もっと柔らかい文章にしたい。

金子部会長： 「環境保全技術を取り入れた市道舗装補修工事を実施」と提案する。

[部会の意見]

「浸透性舗装などの環境保全技術を取り入れた市道舗装補修工事を実施します。」に変更する。

施策7 交通安全対策の推進

[7. 施策指標]

金子部会長： 取組内容①に自転車利用者や高齢者への啓発について書かれているので、施策指標「市内の人身事故発生件数」については自転車利用者や高齢者の数値が分かるようにした方がいい。

[部会の意見]

「市内の人身事故発生件数」について自転車利用者や高齢者の内訳を示す。

施策8 都市計画道路の整備

[7. 施策指標]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

佐藤 委員： 都市計画整備率が修正の結果H26の74.6からH27は72.7に下がるという奇妙な数値の推移です。分母（計画延長）の増加を織り込んだ結果なら、その旨記載することが妥当ですが如何でしょう。

所 管 課： 中間見直し後の7. 施策指標については、H27目標値は記載対象外の項目と解釈してました。H27目標値は現状値と同様に74.6%になります。

金子部会長： 都市計画道路整備率の平成27年度目標値が、平成26年度現状値よりも低

くなっている。修正の対象外としているのかもしれないが、違和感のないように、配慮をお願いしたい。

[部会の意見]

《全施策共通》平成27年度目標値を見直す。

施策9 計画的な公園の整備と維持管理の充実

[7. 施策指標]

金子部会長：平成27年度目標値は見直しの対象外だと思うが、一人当たりの公園面積の値が平成26年度現状値よりも下がっている。また、公園サポーター参画公園数も平成26年度現状値2箇所から平成27年度目標値10箇所と差が大きい。見直しをもう一度お願いしたい。

[部会の意見]

《全施策共通》平成27年度目標値を見直す。

施策10 県営和光樹林公園の有効活用

[3 - 2. 平成27年度の現状]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

佐藤委員：県からの指定管理業務の終了があっても、「2. 施策の目的」は変わりません。案の論調は指定管理解除後は県民のための県営公園機能を重視すべきという印象が強く、県民である和光市民の色彩を薄めた何かすねた感じの説明に感じます。管理が誰であれ和光市内に位置していることは現実なので、市民の役に立つ利用を求める姿勢を崩してはいけません。管理手数料が安く市の負担が大きいという事情があるのならその旨を市民に正しく開示すべきで、市の当局者の不作為を隠ぺいするような印象を与えるべきではありません。

所管課：ご指摘のとおり、市民の役に立つ利用を求める姿勢を崩すものではありません。埼玉県と締結している基本協定書等に基づき、指定管理者として維持管理してきた経緯から、現行の基本協定書等の見直しが成されない限り継続しないものと考えております。

主な理由は次のとおりです。

- ・人件費を計上することが認められていない。
- ・指定管理者として自主事業を行い得た収入は、県からの委託料算出の対象とされてしまい、収入の2分の1相当額が減額されてしまう。
- ・100万円以上の公園施設修繕については、埼玉県が負担することになっているが、県予算を理由に修繕工事を行わず、利用者の安全を確保する観点から緊急的な修繕工事として市が負担している。

・年々増える園内の枯木等の対策に予算が圧迫される。

佐藤委員： 指定管理を継続しないという市のスタンスであれば、そもそも本施策は不要となるのではないかと。市は有効活用すると言っているのに、態度に矛盾を感じる。

金子部会長： 市としては当初から施策名のとおり県営を意識していたし、和光市民は樹林公園の有効利用を期待しており、これからも有効活用するためには出費も仕方ないのではないかと。

佐藤委員： 指定管理業務に関する契約内容を変えるなど、県と交渉すべきである。費用については、例えば、朝霞市や新座市にも負担してもらうなど、様々な検討が必要ではないかと。

金子部会長： 現状にあるように、市民意識調査でも市の魅力や誇りを感じるものとしての順位が高く、市の中でも一番使われている公園である。

藤川委員： 県との交渉事項を記載するのは不適切である。

金子部会長： いかにも有効活用していくかを別の視点から考え、再検討してほしい。

[部会の意見(参考意見)]

市民が魅力や誇りとしている和光樹林公園を市としてどのように有効活用していくのかを検討してほしい。

施策 11 安全な水の安定供給

[4. 課題、6. 取組内容、7. 施策指標]

資料 4 事前質問・回答一覧から抜粋

長野委員： 「地震に対して弱い水道管が残っており」と課題に提示され、取組内容にも耐震管路への更新を掲げているにも関わらず、その成果を測定する指標が設定されていない理由はどのようなもののでしょうか。

所管課： 厚生労働省HPに記載されている水道施設の耐震化の進捗状況では、平成25年度末(平成26年3月末)現在、基幹的な管路の耐震適合性の割合は約4.8%、浄水場の耐震化率は約22.1%、配水池は約47.1%となっています。和光市では、現在管路延長約15.4Kmとなっていますが、この内管路は46.3%、浄水施設、配水池は100%が耐震化となっています。この指標を目標値にしていないのは、近年の人口減少傾向ならびに水需要の減少傾向による水道料金収入の低下に加え、技術系職員減少などのことから、各年の耐震化事業の進捗率が数%程度となっている状況があります。また、耐用年数を経過した老朽管の布設替え事業も急務であることから、老朽管の布設替え(耐震適合管)優先し、全管路100%を目指しているところですが、達成するためには、数十年の歳月が必要です。このことから、指標として記載していません。

ん。なお、和光市水道事業では、現在の耐震化の状況を和光市HPにて公開しています。

長野委員： 和光市の人口は減少していないので、「人口減少傾向」と回答しているのは訂正が必要である。耐震化について、年に数%の進捗があるのなら指標とすべきではないか。

金子部会長： 課題に「大きな地震に対して弱い水道管が残っており、対策が求められています。」と書かれているので、改修が必要な施設等の全体量に対する改修率を指標として追加してはどうか。

[部会の意見]

施設等の耐震化に関する指標（改修が必要な施設等の全体量に対する改修率）を設定する。

施策 12 公共下水道利用の推進

[部会の意見]

意見なし。

施策 13 雨水対策の推進

[7. 施策指標]

金子部会長： 指標名が「雨水“管きよ”整備率」となっているが、管きよは排水設備の一部であり、開きよで整備している箇所もあるため、不要ではないか。言葉の使い方が適切かを確認してほしい。

[部会の意見]

雨水配水施設としては、管きよの他に開きよや側溝などがあり管きよはその一部であるので、「雨水管きよ整備率」でよいのか見直す。

施策 48 防災体制・消防支援体制の強化

[6. 取組内容④]

佐藤委員： 取組内容に「庁内連携を図り」とあるが、内部調整を図るのは当然のことで、例えば奥さんと仲良くしますというレベルの話。わざわざ記載する必要はないのではないか。

[部会の意見]

「庁内連携を図り」を削除する。

[6. 取組内容②]

金子部会長： 取組内容②の「充実を進めます」を「充実を図ります」に修正すべきである。

[部会の意見]

「充実を進めます」を「充実を図ります」に修正する。

施策 49 地域と連携した防犯対策の推進

[7. 施策指標]

佐藤委員： 後日記載としている「日ごろから防犯対策を行っている」と回答した市民の割合の現状値が20%を上回るか下回るかによって今後の目標が変わってくるのではないかと。現状値の数字はまだ分かりませんか。

事務局： 今月、市民意識調査を行っているので、結果の集計後に記載する予定です。平成26年度は市民意識調査を行っておりませんが、前回、平成24年度意識調査結果は17.7%でした。

藤川委員： 平成21年度の現状値は、63.3%となっている。なぜこんなに低下したのか。

事務局： 東日本大震災からの影響と思われる。防災意識が高まったので、まだ対策できてないという意識が高くなったのではないかと推測される。

藤川委員： 本施策は防犯に関する内容である。防災と防犯を混同しているのではないかと。

金子部会長： 現状を明確にし、よく精査してほしい。

[部会の意見]

現状値を確認し、目標値を再検討する。

施策 55 地球温暖化対策の推進

[5. 課題解決の考え方と取組]

金子部会長： 促進と推進の使い方を再確認してほしい。

[部会の意見]

「促進」及び「推進」の使い方を再確認する。

[3-2. 平成27年度の現状]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

長野委員： 北インター整備における大規模事業所の立地、そして新規着工の住宅の拡大という（首都圏でも顕著な）和光市の近年の特徴は、3-2. 平成27年度の現状において、どのような影響があると試算されているのでしょうか。

所管課： 市独自の試算は行っておりませんが、埼玉県での試算によりますと、和光市域からの温室効果ガス排出量は増加傾向にあり、今後もしばらくは増加していくものと見込んでおります。

長野委員： 首都圏でも和光市と三郷市は大きな開発を実施している。そのことを平成2

7年度の現状に追加すべきである。

金子部会長： ご指摘のとおり、特に日本郵政の開発は大々的に取り組んでいる。

佐藤委員： 現状に入れることで、指標「温室効果ガス排出量」の見直しについても納得ができる。

[部会の意見]

和光市北インター地域土地地区画整理事業の開発について記載する。

施策 71 持続可能な財政運営

[6. 取組内容⑤]

金子部会長： 入札制度の改革には理想的なことが書かれているが、実際に行うのは大変難しい。総合振興計画では平成23年度からこの入札制度の改革を取り入れているが、いまだに改革されていない。国や県は既に点数制を導入して、入札制度の改革を行っている。和光市が同様な一般入札とすると、例えば市内の業者は落札することが困難となるなどのいろいろな困難が生じてくると思う。

また、担い手の育成についても書かれているが、市の計画で、そこまで書けないのではないか。

したがって、「社会情勢に適応した入札制度の見直しを行う」という内容のみでいいのではないか。

佐藤委員： 担い手の育成について、中身があるのか疑問である。

長野委員： 市では競争性だけではなく、公平性の観点で、例えば障害者を雇用するということもある。価格のみを重視しているわけではない。

金子委員： 文面に必ずしも競争性という単語を入れない方がいいのではないか。

松田委員： 理想だけではなく現実も考慮してほしい。

[部会の意見]

実現性のある内容に見直す。

[3-2. 平成27年度の現状]

長野委員： 平成25年度に「健全な財政運営に関する条例」が施行された。平成23年度以降に新しい条例が出来たのであれば、現状に追記すべきである。

[部会の意見]

「健全な財政運営に関する条例」を追記する。

[7. 施策指標]

長野委員： 経常収支比率の現状値が89.8%であるが、平成27年度の数値が75.0%なのは目標値として厳しいのではないかと。もう一度目標値の見直しをお願い

いしたい。

[部会の意見]

経常収支比率の目標値を実態に合わせて見直した方がいいのではないかと。

施策 72 市民の期待に応える職員の育成

[6. 取組内容、7. 施策指標]

金子部会長： 取組内容が職員に対する鞭ばかりで飴がない。ほとんど休まずに働き続けている職員もおられると思う。インセンティブを入れて能率を良くすることを考えてもいいのではないかと。

松田委員： 市の職員はサービス業であることを考えると、スーパーいなげやのような民間企業で研修を受けるべきではないかと。

金子部会長： おっしゃるとおり、国の職員は民間企業で研修を受ける機会がある。

泉委員： 今の内容は、取組内容①の「効率的で効果的な研修」に含まれるという解釈でいいのではないかと。

佐藤委員： 現在、市民に対して、職員に何を期待しているのかという内容のアンケートを実施しているのか。

事務局： 実施していない。

佐藤委員： 個人的には窓口対応には迅速な対応を求めるが、アンケートでニーズを把握することも必要だと思う。

長野委員： 本施策は市民とのコミュニケーションのツールであるとする、事前に職員の専門資格の保有状況の調査について質問したが、例えば弁護士が何人いるということを公表し、これだけの戦力がいますと現状欄に記載すべきだと思う。

佐藤委員： 施策指標「職務満足度」については誰が採点しているのか。

事務局： 自己評価制度で職員自身が採点している。

佐藤委員： 市民と市をつなぐ施策であるにもかかわらず、市民の評価ではなく、職員の自己評価を指標としてしまっている。

藤川委員： 施策名が「市民の期待に応える職員の育成」であることを考慮し、指標に市民のアンケート調査があってもいいのではないかと。

長野委員： 市民の職員に対する満足度は、市の取組に対する満足度と同じ答えになると思う。

金子部会長： 満足度について、項目別に段階別に調査すれば、分析できるのではないかと。

佐藤委員： 飲食店で5段階程度で「接客はどうですか」と質問するように、窓口対応について質問する方法もある。

松田委員： 調査の意味はないと思う。そもそも職員には、市民のために働くのではなく、自分自身のために働いてほしい。

佐藤委員：自分がどのような評価をされているのかを知るのことは大切であり、知らなければ次のステップに進めないと思う。

金子部会長：職員にとっても、市民から評価されることで励みにもなると思う。

藤川委員：満足度に加えて、市民の期待を把握する取組の検討も必要である。

[部会の意見]

市民の満足度調査を実施し、指標とする。

[部会の意見]

市民の期待を把握するための調査等を取組として検討する。

施策 73 市有施設の適正な保全

[3-2. 平成27年度の現状]

資料4 事前質問・回答一覧から抜粋

長野委員：本施策は現有施設を全て保持し続けることを前提としているという理解でよろしいでしょうか。

所管課：現時点では、現有施設を全て保有し続けることを前提としております。

しかし、今後は「公共施設の配置及び機能の再編に関する基本方針」（平成27年度策定予定）を踏まえた具体的な検討を平成28年度以降に行い、公共施設を全て保有し続けるかどうかを判断することとなります。

長野委員：質問に対しての回答は、「全部保有することを前提とする、ただし、28年度以降に保有か除却かどうかを判断する。」という大前提を変えるか変えないかの決定をこれから行うというものであった。今年度の基本構想中間見直し時には、全て保有し続けるという方向だが、来年度に方針を転換するかしないか検討する、ということが明らかになっている。

大きな方向転換をするかもしれないと明示されている以上、そういう段階にあるということを、書いておいた方がいいのではないかと。

金子部会長：現状の修正を行うということか。

長野委員：所管の回答のとおり検討していることを追記してほしい。

佐藤委員：私は特に問題ないと思う。施策では、今あるものを耐震化・長寿命化等で、しっかり管理していくという考えでいいのではないかと。追記するのであれば、「現有の施設については」というような表現でいいのではないかと。

金子部会長：それでは、「総合管理計画を策定し、“現有の施設の”総合的かつ・・・」と修正してほしいという意見とする。

[部会の意見]

「総合管理計画を策定し、“現有の施設の”総合的かつ・・・」に修正する。

施策 74 積極的な広報活動と情報共有化の推進

[部会の意見]

意見なし。

(2) その他

[全施策共通事項]

佐藤委員： 施策内容修正シートは、見直し後、どのように取り扱うのか。冊子を作成するのか。

事務局： はい、新しく総合振興計画基本構想の冊子を作成する予定です。

佐藤委員： それならば、27年度の現状が空白になっているのは変ではないか。少なくとも策定から5年経った現状認識はどの施策にもあるべきではないか。

金子部会長： 各シートを審議する中でも、平成27年度の現状欄が空白になっていることに違和感があった。また、指標についても、取組内容の成果を反映する指標とするように修正してほしい。

さらに、今回は修正案に対する審議を基本としたので不十分なところが多く生じた。施策に対する目的・現状・課題・取組・指標がそれぞれずれているために、何を施策の目標としているのか分からない部分が多く見受けられた。

3 その他

次回開催の日程

開催日：平成27年7月13日（月） 午後2時00分より

開催場所：和光市役所議事堂3階全員協議会室

4 閉会